

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

学校創立 125 年を超える伝統ある本校の役割は、生徒や保護者・地域・社会の期待に応えるため、**生徒の第一に希望する進路の実現を図るとともに**、地域・社会に有為で未来を拓きグローバルに活躍するために求められる**「確かな学力」と「幅広い資質・能力」、「豊かな感性」**を育成することである。

そのため、「**グローバルリーダーズハイスクール (GLHS)**」、「**スーパーサイエンスハイスクール (SSH)**」としての責務のもと、生徒にとって有意義で充実した教育活動の展開を追求していく。

■ **育てたい生徒像：** ○チャレンジ精神と粘り強さを発揮し、主体的に学び、成長し、自らの進路を切り拓こうとする生徒  
○豊かな人間性とリーダーとして求められる幅広い資質・能力を育み、将来、グローバルに活躍する生徒

■ **目標とする学校像：** 「すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに、主体的な学びで成長する学校」をめざす

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成**
- (1) 学習習慣の定着と学習時間の確保を徹底し、生徒の持つ「学力」を最大限に引き出す。
- ア 講習の実施や自習室の開放など、土曜日の時間帯に生徒が主体的に学ぶ環境を整え、土曜日に学習する習慣を身に付けさせる。
- イ 学習習慣の定着と時間管理能力を育成することにより、学習時間の確保を徹底させる。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「土曜日を学習時間として活用」の肯定的評価を70%以上に。(R6 66.1%)
- ※ 学力生活実態調査による1,2年生の「学習時間 (平日、休日)」の平均を平日 1 時間30分、休日 3 時間以上に。
- (2) GLHS、SSHとして教育活動の充実に取り組み、生徒の「幅広い資質・能力」の向上を図る。
- ア 課題研究の充実を図り、生徒の「思考力・判断力・表現力」、「課題発見・解決能力」、「協働して取り組む力」などを育成する。
- イ 外部と連携した取組みや地域と協働した取組みなどをすすめ、GLHSやSSH等の活動をさらに深化させる。
- ウ 「グローバルリーダー養成プログラム」など、海外の大学生等との交流を通じて、国際的な視野を広げるとともに、「英語による表現力」を育成する。
- ※ SSH アンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価を 65%以上に。(R4 63.7%, R5 61.5%、R6 66.3%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「岸和田高校では特色ある教育活動が行われている」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 92.7%, R5 94.3%, R6 95.5%)
- (3) 学校として組織的に、また、教員一人ひとりが授業力の向上に取り組む。
- ア 1人1台端末の活用をすすめながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、生徒の「確かな学力」の育成をめざす。
- イ 教員一人ひとりが授業アンケート結果に基づき「授業振り返りシート」を作成し、自らの取組みの成果と課題を踏まえ、さらなる授業改善に取り組む。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 89.0%, R5 90.3%, R6 93.8%)
- ※ 授業アンケート項目 8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目 9「知識や技能が身に付いた」の平均 3.20以上を維持。(R4 3.30, R5 3.34, R6 3.33)
- 2 「高い志」の育成と「第一希望の進路実現」**
- (1) GLHS、SSH等の活動を通して、生徒が高い志を持ち、自らの将来像について主体的に考えるよう働きかける。
- ア 大学・研究機関等への訪問等を通して、生徒が視野を広げ、学習意欲を高めることにより、「主体的に学ぶ力」を育む。
- イ 各種講演や研修、実習などの計画的な実施により、生徒が高い志を持ち、早い段階で自らがめざす将来像を描けるようにする。
- ※ 大学・研究機関等への訪問、各種講演や研修、実習など、それぞれの取組みに対する生徒の肯定的評価を 90%以上に。
- (2) 第一に希望する進路の実現をめざし、生徒が高い志を持ち続けることができるよう指導・支援する。
- ア 学力診断や模擬試験等を定期的実施し、生徒が自らの実力を把握するとともに、教員がその結果に基づき適切な進路指導を行う。
- イ 「岸高スーパークラス」、「岸高ハイレベル講習」など、高い志をもった生徒が互いに切磋琢磨しながら主体的に学べる環境を整える。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「将来の進路や職業などについて適切な指導」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 94.1%, R5 94.5%, R6 95.5%)
- ※ 国公立大学進学者の割合を50%以上に。(R3-R4で44.8%, R4-R5で45.7%, R5-R6で50.5%)
- 3 「豊かな感性」「高い人間性」の育成と「安全で安心な教育環境」の整備**
- (1) 「文武両道」をめざし、学習と部活動・学校行事の両立への意識を高める。また、部活動において「リーダーとしての資質・能力」を育む。
- ア 生徒が主体的に、かつ、共感・協働の気持ちを持って取り組める活動の充実を図り、生徒の「豊かな感性」を育む。
- イ 部活動を奨励するとともに、部活動においてリーダーとしての資質・能力を育む。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 93.1%, R5 92.8%, R6 95.6%)
- (2) 生徒一人ひとりが安全で安心して学校生活を送ることができるよう、教育環境の整備に努める。
- ア 社会人としてのマナーを身に付け、自他の人権を尊重する人権感覚を醸成するなど、「高い人間性」を育む。
- イ 生徒が互いに思いやりの気持ちを持ち、信頼しあいながら、安心して学ぶことができる学習環境づくりに努める。
- ウ 教育相談室(教育相談・支援教育)の機能の充実を図るため、支援を必要とする生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価80%以上を維持。(R4 81.4%, R5 84.7%, R6 85.1%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 90.9%, R5 92.0%, R6 93.3%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価70%以上を維持。(R4 64.4%, R5 71.8%, R6 72.3%)
- (3) 学校として組織的に校務運営の効率化を推進し、教員一人ひとりが教員としての資質・能力を高めるとともに、生徒と向き合う時間を確保する。
- ア 各分掌、各学年が行う行事や取組みなどについて、課題を洗い出すとともに、成果を検証しながら見直しを行い、業務改善を図る。
- イ 各部活動が「部活動に係る活動方針」に基づく適切な休養日を設定することで、時間外在校等時間の縮減を図る。
- ウ 全校一斉定時退庁日を徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革をすすめ、勤務時間管理と健康管理に努める。
- ※ (教職員向け) 学校教育自己診断「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価80%以上を維持。(R4 83.9%, R5 80.0%, R6 83.3%)
- ※ 時間外在校等時間が月当たり80時間以上となる教員の人数を前年度より減少させる。(12月末までの月当たり80時間以上：R4 5人, R5 5人, R6 5人)
- 4 「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上**
- (1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果などを積極的に広く発信する。
- ア 様々な機会を通じて、また、学校Webページやメールサービス、ブログなど様々な手段により教育活動の積極的な発信に努める。
- イ 学校Webページ「岸高’e’博物館」により、課題研究における論文などの成果に加え、本校所蔵の資料のデジタル版「岸コレ」などを発信する。
- ※ (保護者向け) 学校教育自己診断「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 91.9%, R5 93.8%, R6 92.3%)
- ※ 学校Webページ「岸高’e’博物館」へのアクセス数を前年度より増加させる。(12月末までのアクセス数：R4 11,000人, R5 7,827人, R6 7,895人)
- (2) 地域の学校や団体等との連携を密にし、地域を中心とした社会参画意識の向上を図る。
- ア 地域の幼稚園や小学校等との交流などを行うことにより、生徒の社会参画意識を高める。
- イ 地域の公的機関やNPO等と連携した取組みをすすめ、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高める。
- ※ 生徒が地域の課題をテーマとした課題研究に取り組む。2年生文理課題研究において5本以上をめざす。(R4 5本, R5 5本, R6 7本)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 学校運営協議会からの意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【学校生活全般】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の「1 入学して満足している」は、昨年度は数値を下げたが、今年度は91.6%と上昇した。生徒の「14 学校に行くのが楽しい」は横ばい、保護者の「1 入学して満足した高校生活を送っている」、「13 学校に行くのが楽しいと言っている」はともに大きく上昇した。今後も、これらの2つの項目を最重要視し、教育活動の充実と教育環境の整備に取り組んでいきたい。</li></ul> <p>【指導方針】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の「2 授業や部活動に熱心な先生が多く、その指導方針に納得できる」は90.2%、保護者の「5 指導方針全般に共感できる」は92.8%と、どちらもここ3年で最も高い数値となった。</li><li>保護者の「2 学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている」は94.1%となり、今回、数値が大きく上昇した。引き続き、本校の教育方針や校長としての考えを保護者に理解してもらえるよう尽力していきたい。</li></ul> <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の「3 授業に満足している」は87.5%となり、昨年度86.0%と下げた数値を戻す形となった。授業に対する満足度の向上が最大の課題であると認識し、教科指導力向上に向けた組織的な取組みをさらに推進していきたい。</li><li>生徒の「7 1人1台端末を積極的に活用している」は年々上昇し、今回は94.6%となった。端末が導入されてから5年めとなり、活用が定着してきた半面、今後さらに活用の幅を広げることが課題となる。引き続き、授業において端末を有効活用できるよう、学校として取組みをすすめていきたい。</li><li>「6 課題研究をはじめとする探究的な学習や特色ある教育活動が行われている」について、生徒は95.0%と安定した高い数値となり、保護者は3年連続で数値が上昇し、今回は99.1%となった。課題研究についてはSSH第Ⅲ期の取組みとして、「文理融合型課題研究」や「縦割り型課題研究」などに取り組み、課題研究の充実に努めている。今後も、生徒が課題研究に取り組むことを通して、主体性や課題発見・解決能力、情報活用能力など、これから求められる資質・能力の育成を図っていきたい。</li><li>特色ある教育活動については、イギリス研修とオーストラリア研修などの実施が数値の上昇に寄与したものとする。今後もGLHSとして、SSHとして、参加生徒にとって意義ある取組みの充実に努めたい。</li><li>生徒の「10 土曜日は学校や家庭において、学習時間として活用している」は昨年度の66.1%より数値が上昇し71.6%となったが、本来は100%をめざすべき内容である。部活と勉強の両立に向けて、学習時間の確保が求められる中、生徒たちには引き続き、忙しい中での時間の有効活用を訴えていきたい。</li></ul> <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の「9 将来の進路や職業などについて、講演会や説明会を実施するなど適切な指導をおこなっている」は95.7%と、ここ3年で最も高い数値となった。保護者の同様の項目について、昨年度は90.4%と下げてしまったが、今年度は94.4%と大きく上昇した。</li><li>今後も生徒一人ひとりが具体的な目標、「高い志」をもって学習に取り組むことができるよう、生徒に対する適切な進路指導を3年間で計画的に実施するとともに、保護者の方に対する進路に関する丁寧な情報発信と保護者懇談をはじめとした進路等に関する相談体制の充実を図っていきたい。</li></ul> <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の「12 あいさつやマナーを守る指導を行うことで社会人としてのモラルを守る態度を育てるとともに、いのちの大切さを学ぶ機会がある」は84.4%とほぼ横ばい、保護者の同様の項目については86.5%と、この3年間で最も高い数値となった。引き続き、生徒たちに人権感覚を涵養するとともに、人間性を高めることができるよう、学校としてすべての教職員が一致して生徒指導を行っていけるようにしていきたい。</li></ul> <p>【教育相談】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の「8 いじめなど私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」は94.1%であり、3年間で最も高い数値となった。一方、「11 保健室や相談室などで気軽に相談できる」は71.5%となり、昨年度の72.3%から数値がやや下がった。学習面や人間関係などで悩みを抱える生徒が一定数いる中、今後も保健室や相談室をはじめとした相談体制をさらに充実させ、生徒一人ひとりの支援に努めていきたい。</li></ul> <p>【学校行事・部活動】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>「4 文化祭や体育祭、校外学習などの学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加している」について、生徒は92.2%とほぼ横ばいであったが、保護者は97.6%とこの3年間で最も高い数値となった。</li><li>生徒の「5 部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加している」は94.5%と数値はやや下がったが、高い数値を維持しているといえる。</li></ul> <p>【発信・広報】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の「13 メールサービスやクラスルーム、ホームページ、校長ブログ等によって、学校の情報が発信されている」は95.5%、保護者の同様の項目は95.7%と、この3年間で最も高い数値となった。今後も、校長ブログやインスタグラムをはじめ、様々な機会を通じて、本校の教育活動を分かりやすく発信していきたい。</li></ul> <p>【PTA活動等】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>保護者の「9 学校行事やPTA活動に参加したことがある」は76.7%となり、数値はさらに上昇した。</li><li>保護者の「10 懇談や家庭連絡などを通じて、保護者と相談しやすい体制を作っている」は、昨年度75.1%と数値を大きく下げてしまったが、今回はやや上昇した。こまめな家庭連絡をはじめ、保護者と連携しながら、子どもたちへの指導・支援を行っていきたい。</li></ul> | <p>第1回（5/14）</p> <p>○学校からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"><li>「スクール・ミッション」、「スクール・ポリシー」、「令和7年度行事予定」、「令和6年度学校教育自己診断の結果」、「令和7年度学校経営計画及び学校評価」、「GLHS卒業生アンケート（H25～R6）」、「昨年度の進路実績」、「新1年生の状況」、「広報」、「グローバルリーダー養成プログラム」、「課題研究」などについて資料を用いて説明した。</li></ul> <p>○「新1年生の状況」に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"><li>新1年生の様子、例えば部活動の加入率や来ている地域などに変化はあるか。<br/>→運動部に入部しようという生徒の動き、来ている地域に関しては大きな変化は感じていない。これまでから岸和田市を中心に北からも南からもバランスよく入学している。大阪市内や堺市から登校してくる生徒も多くいる。</li><li>英検2級を取得して受験している生徒はどれくらいの割合いるのか。<br/>→昨年度の入学者選抜では約35%の生徒が英検2級を取得していた。この間増え続けており、今年度はもう少し増加しているものと考ええる。</li><li>入学当初の学力調査でSゾーンであった生徒はどのような大学に進学しているか。<br/>→大学受験は国公立大学の合格・不合格によって進学先が決まるため、様々である。京都・大阪・神戸などに進学しているのは入学当初Sゾーンであった生徒が多い。</li></ul> <p>第2回（10/29）</p> <p>○学校からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"><li>「学校特色枠」、「学校経営計画の進捗」、「広報」、「海外研修」、「課題研究発表会」などについて資料を用いて説明した。</li></ul> <p>○学校からの説明全体を通じて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>学校特色枠の選抜方法の書きぶりはGLHS10校全体で統一しているのか。<br/>→各校で多少異なるところはあるが、方針としては大きく変わらない。</li><li>大阪公立大学が人気なのは、授業料無償化の影響が大きいのではないか。<br/>→授業料無償化の影響は大きい。大阪大学に合格できそうでも、大阪公立大学を選ぶ生徒もいる。高い志をもち、学びたい内容を基準に大学を選んでほしい。</li><li>大学選択については、5教科型か3教科型かで進路の考え方が変わる。国公立大学のように5教科をバランスよく学ぶ進路も良いと考えている。</li><li>今年度の体育祭（短縮版）では、応援パフォーマンスが最初に行われたことで、衣装をすぐに着替えなければならず、写真撮影も十分にできなかった。<br/>→来年度の実施内容については、今年度の状況を踏まえ、検討をすすめている。</li><li>岸高見学会の参加状況について、8月は減少し、11月は増加したということか。<br/>→8月の岸高見学会は昨年度まで2日間で行っていたものを今年度から1日にして2部制とした。11月は今年度から対象を中学2年生にも拡大したことによる。</li><li>2部制にしたことで内容が薄くはなっていないのか。<br/>→内容および説明にかける時間などは変えていない。岸高ホールでの全体説明とその後の校内見学・部活動見学を並行して行うなど、時間を工夫して実施している。</li><li>椅子の下に荷物を置いているが、生徒によって荷物を入れるかごの有無が異なる。環境整備として、全員共通のかごを設けることなどはできないか。</li><li>「学びのロードマップ」は、保護者から見えるようにするのは良いことだと思う。すべての教科で歩調を合わせすぎることなく、先行して作成していけば良い。</li><li>GLHS・SSH指定校としての取組みをもっと保護者に伝えてほしい。「世界に一番近いGLHS」というキャッチフレーズを掲げていたように、分かりやすい発信が必要。</li></ul> <p>○授業見学後の感想</p> <ul style="list-style-type: none"><li>板書する機会が少なくなり、ICTを活用した授業スタイルに変化していると感じた。</li><li>ペアワークなど、生徒どうしの話し合いが多くあり、メタ認知を育む工夫が見られる。一方で、発言しない生徒もおり、思春期特有の難しさも感じた。</li><li>2年数学（文系スーパー）の授業は内容が整理され、生徒の集中が感じられた。</li><li>3年物理（理系スーパー）は女子が極端に少なく、進路選択上の偏りが見られた。</li></ul> <p>第3回（2/18）</p> <p>○学校からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"><li>「令和7年度学校教育自己診断の結果」、「令和7年度学校経営計画及び学校評価」、「令和8年度学校経営計画」、「大学入学共通テストの結果」、「課題研究発表会」、「SSHの次期申請」などについて資料を用いて説明した。</li></ul> <p>○令和7年度学校教育自己診断の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>保護者について昨年度から電子フォームによる回答に変えたところ、回収率が下がったとのことだが、告知方法はどのようにしているのか。入力フォームへのリンクやQRコードを掲載したメールを送るなどの方法がよいのではないか。<br/>→生徒を通じて保護者向けに、学校教育自己診断への回答に関する依頼文を配付するとともに、生徒に配付したことをメーリングリストにて案内している。今後はメーリングリストの運用を見直し、回答率増加を図っていきたい。</li><li>ホームページの更新が滞っているという意見があったようだが、ホームページを改善し伝えることができれば、アンケート回収率も向上するのではないか。<br/>→現在のホームページを全面改訂し、新しいページに切り替える予定で、外部業者に委託していることもあり、更新が滞ってしまっていた。今年度中に改訂の予定。</li><li>個人ロッカーの設置を求める声があるが、食堂・自習室が老朽化していることもあり、思い切って食堂をロッカー室にしてはどうか。<br/>→食堂は利用者もありロッカー室にはできないが、自習室を兼ねており、匂いを気にする生徒もいるため、創立130周年事業でリニューアルしたいと考えている。</li></ul> <p>○令和8年度学校経営計画案について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>夜に学校の前をよく通るが、働き方改革が進み、学校の電気がついていることはかなり少なくなったと思う。夜遅くまで残っている教科・教員は限定的なのか。<br/>→時間外在校等時間の全体平均は毎年5%以上減少しているが、教員により二極化が進んでおり、部活動に熱心な教員などは時間外が多くなる傾向にある。</li><li>時間外在校等時間の多い教員に対して産業医面談は実施しているのか。<br/>→産業医による面談は月1回実施しており、前月に80時間を超えた教員を対象としている。また、産業医面談を希望する教員に対しても実施している。</li></ul> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                  | 今年度の重点目標                                                                                         | 具体的な取組計画・内容                                                                                                                                                                          | 評価指標[R6年度値]                                                                                                                                                                                                                                                                            | 自己評価                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成 | (1) 学習習慣の定着と学習時間の確保<br>ア 「土曜学習タイム」実施による土曜日の学習習慣の定着<br><br>イ 学習習慣の定着と時間管理能力の育成                    | (1) 学習習慣の定着と学習時間の確保<br>ア ・土曜日の時間帯に講習の実施や自習室の開放など、生徒が主体的に学ぶ環境を整えることで、土曜日に学習する意識を高め、習慣を身に付けさせる。<br>イ ・学習習慣の定着と時間管理能力の育成を図ることで、学習時間の確保を徹底させる。                                           | (1) 学習習慣の定着と学習時間の確保<br>ア ・(生徒向け)学校教育自己診断における「土曜日を学習時間として活用」の肯定的評価を70%以上に。[66.1%]<br>イ ・学力生活実態調査による1,2年生の「学習時間(平日、休日)」の平均を平日1時間30分、休日3時間以上に。[新規]                                                                                                                                        | (1) 学習習慣の定着と学習時間の確保<br>ア ・肯定的評価は71.6%となり、目標は達成したが、学習時間の確保に向けた学習習慣の定着が課題となる中、生徒のさらなる学習意欲の向上を図っていきたい。(○)<br>イ ・学力生活実態調査による1,2年生の「学習時間(平日、休日)」の平均は、平日84分、休日147分であり、新規に立てた目標を達成できなかった。(△)                                                                             |
|                        | (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実<br>ア 課題研究の充実<br><br>イ GLHSやSSHの活動のさらなる深化                                 | (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実<br>ア ・課題研究を「縦割り型課題研究」及び「文理融合型課題研究」として充実させ、「思考力・判断力・表現力」、「課題発見・解決能力」などの育成を図る。<br>イ ・外部との連携や地域での協働等により、GLHSやSSHの活動をさらに深化させる。                                   | (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実<br>ア ・SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価を65%以上。[66.3%]<br>イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「特色ある教育活動がある」の肯定的評価90%以上を維持。[95.5%]                                                                                                                                        | (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実<br>ア ・SSHアンケートによる肯定的評価は59.3%となり、昨年度の数値を大きく下げ、目標を達成できなかった。引き続き、課題研究のさらなる充実に努めていきたい。(△)<br>イ ・「特色ある教育活動がある」の肯定的評価は95.0%であり、目標を達成した。GLHS・SSHとして、さらなる充実に努めていきたい。(○)                                                                           |
|                        | (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み<br>ア 1人1台端末を活用した授業改善の取組み<br><br>イ 教員一人ひとりによる「授業振り返りシート」を活用した授業改善の取組み | (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み<br>ア ・1人1台端末の活用をすすめながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む。<br>イ ・教員一人ひとりが授業アンケート結果に基づき、課題の洗い出し、改善方策の策定、成果検証を行う「授業振り返りシート」を作成し、自らの取組みの成果と課題を踏まえ、さらなる授業改善に取り組む。 | (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み<br>ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価90%以上を維持。[93.8%]<br>イ ・授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身についた」の肯定的評価3.30以上を維持。[3.33]                                                                                                                      | (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み<br>ア ・「1人1台端末を活用している」の肯定的評価は94.6%とさらに上昇し、目標を達成した。今後さらに授業における1人1台端末の効果的な活用をすすめていきたい。(◎)<br>イ ・授業アンケートの項目8、9の肯定的評価は3.38であり、昨年度の数値を大きく上回った。引き続き、すべての教員がさらに授業力を向上することができるよう、授業改善に向けた組織的な取組みをすすめていきたい。(◎)                                  |
|                        | (1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く<br>ア 大学・研究機関等への訪問の実施<br><br>イ 各種講演や研修、実習などの計画的な実施                           | (1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く<br>ア ・京都大学キャンパスガイドや大阪大学ツアー、東京方面大学キャンパスツアー、SSHサイエンスツアーなどの参加を奨励する。<br>イ ・卒業生による職業講話や大学教授等の出前講義などを実施し、生徒に将来について考える機会を与える。                                          | (1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く<br>ア ・東京方面大学キャンパスツアー、SSHサイエンスツアーへの参加生徒の肯定的評価95%以上を維持。[100%]<br>イ ・卒業生による職業講話、大学教授等の出前講義への参加生徒の肯定的評価90%以上を維持。[いずれも90%以上]                                                                                                                                           | (1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く<br>ア ・東京方面大学キャンパスツアー、SSHサイエンスツアーに参加したすべての生徒が「とても満足している」、「満足している」と答え、肯定的評価は100%であった。(○)<br>イ ・各種講演会に参加した生徒の満足度は高く、肯定的評価は90%以上(卒業生による職業講話は92.5%、大学教授等の出前講義は94.0%)であった。(○)                                                                      |
|                        | (2) 第一に希望する進路の実現<br>ア 進路指導の充実<br><br>イ 「岸高ハイレベル講習」、「岸高スーパークラス」の実施                                | (2) 第一に希望する進路の実現<br>ア ・学力診断や模擬試験等の結果を踏まえた適切な進路指導を行う。また、保護者に対しても、進路説明会による進路等に関する丁寧な情報発信と懇談などによる相談体制の構築を図る。<br>イ ・「岸高ハイレベル講習」、「岸高スーパークラス」など、高い志をもった生徒が切磋琢磨しながら主体的に学べる環境を整備する。          | (2) 第一に希望する進路の実現<br>ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的評価90%以上を維持。[95.5%]<br>・国公立大学進学者の割合を50%以上に。[R5-R6で50.5%]<br>イ ・「岸高ハイレベル講習」について、生徒アンケート「受講してよかった」、「実力がついた」の肯定的評価ともに80%以上に。[72.9%、72.9%]<br>・「岸高スーパークラス」について、生徒アンケート「クラスに入ってよかった」、「実力がついた」の肯定的評価ともに90%を維持。[96.9%、90.7%] | (2) 第一に希望する進路の実現<br>ア ・「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的評価は95.7%に上昇した。昨年度から取り組んだ「進路HR」の充実が数値上昇に寄与したものとする。(◎)<br>・国公立大学進学者の割合は48.4%であった。(△)<br>イ ・「岸高ハイレベル講習」は、「受講してよかった」が87.7%、「実力がついた」が83.6%であった。(◎)<br><br>・「岸高スーパークラス」は、「クラスに入ってよかった」が95.7%、「実力がついた」が92.8%であった。(○) |

府立岸和田高等学校

|                                               |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>3「豊かな感性」「高い人間性」の育成と「安全で安心な教育環境」の整備</div> | <div><div>(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成</div><div>ア 生徒が主体的に取り組むことができる活動の充実</div><div>イ 部活動の奨励と部活動におけるリーダーとしての資質・能力の育成</div></div>           | <div><div>(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成</div><div>ア ・校外学習、文化祭、体育祭、合唱コンクールなど、生徒が主体的に、かつ、共感・協働の気持ちを持って取り組める活動の充実を図る。</div><div>イ ・部活動員を対象とした研修を実施する。</div></div>                                                                     | <div><div>(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成</div><div>ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加」の肯定的評価 90%以上を維持。[92.9%]</div><div>イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価 90%以上を維持。[95.6%]</div><div>・部活動員対象の研修を1回以上実施[1回実施]</div></div>                                  | <div><div>(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成</div><div>ア ・「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加」の肯定的評価は 92.2%と昨年度より微減したが、目標は達成した。(○)</div><div>イ ・「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価は 94.5%と昨年度より微減したが、目標は達成した。(○)</div><div>・運動部員対象の研修を 10/15、3 / 2 の 2 回実施。(○)</div></div>                                                                                                       |
|                                               | <div><div>(2) 安全で安心な教育環境の整備</div><div>ア 社会人としてのマナー、人権感覚の育成</div><div>イ 安心して学ぶことができる学習環境づくり</div><div>ウ 教育相談室(教育相談・支援教育)の機能の充実</div></div>  | <div><div>(2) 安全で安心な教育環境の整備</div><div>ア ・社会人としてのマナーや自他の人権を尊重する人権感覚など、「高い人間性」を育む。</div><div>イ ・生徒が互いに思いやりの気持ちを持ち、信頼しあいながら、安心して学ぶことができる学習環境づくりに努める。</div><div>ウ ・教育相談室の機能の充実を図るため、支援を必要とする生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。</div></div>        | <div><div>(2) 安全で安心な教育環境の整備</div><div>ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価 80%以上を維持。[85.1%]</div><div>イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価 90%以上を維持。[93.3%]</div><div>ウ ・(生徒向け)学校教育自己診断「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価 70%以上を維持。[72.3%]</div></div> | <div><div>(2) 安全で安心な教育環境の整備</div><div>ア ・「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価は 84.4%であった。生徒に対し、あいさつやマナー指導など、全教員が一致して指導を行っていきたい。(○)</div><div>イ ・「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価は 94.1%であり、この3年間で最も高い数値となった。安全で安心な教育環境に向け、さらなる向上をめざしたい。(◎)</div><div>ウ ・「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価は 71.5%であり、昨年度より微減したが、目標は達成した。より一層、生徒が相談しやすい体制づくりに努めていきたい。(○)</div></div> |
|                                               | <div><div>(3) 校務運営の効率化の推進</div><div>ア 各分掌、各学年が行った取組みに関する検証と業務改善</div><div>イ 「部活動に係る活動方針」に基づく適切な休養日の設定</div><div>ウ 全校一斉定時退庁日の徹底</div></div> | <div><div>(3) 校務運営の効率化の推進</div><div>ア ・各分掌、各学年が行った取組みについて、成果を検証しながら見直しを行い、業務改善を図る。</div><div>イ ・各部活動が「部活動に係る活動方針」に基づく適切な休養日を設定することで、時間外在校等時間を縮減する。</div><div>ウ ・全校一斉定時退庁日を徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革をすすめ、勤務時間管理と健康管理を行う。</div></div> | <div><div>(3) 校務運営の効率化の推進</div><div>ア ・(教職員向け)学校教育自己診断「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価 80%以上を維持。[83.3%]</div><div>イ ・時間外在校等時間が月当たり 80 時間以上となる教員(12 月末まで)の人数を前年度より減少させる。[5人]</div><div>ウ ・時間外在校等時間の月当たり時間数(12 月末まで)の全教員平均を前年度より5%削減させる。[40.0]</div></div>              | <div><div>(3) 校務運営の効率化の推進</div><div>ア ・「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価は 83.3%であり、昨年度とまったく同じ数値であった。(○)</div><div>イ ・時間外在校等時間が月当たり 80 時間以上となる教員(12 月末まで)は2人となった。この3年間ずっと5人であったが、今回は 80 時間以上の人数を減らすことができた。(◎)</div><div>ウ ・時間外在校等時間の月当たり時間数(12 月末まで)の全教員平均は 36.9 時間であり、7.7%削減させることができた。(◎)</div></div>                                                 |
| <div>4「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上</div>      | <div><div>(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信</div><div>ア 様々な機会、様々な手段による教育活動の積極的な発信</div><div>イ 学校Webページによる探究学習の成果、岸和田高校教育コレクションの発信</div></div> | <div><div>(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信</div><div>ア ・様々な機会、学校Webページやメールサービス、ブログなど様々な手段により教育活動の積極的な発信に努める。</div><div>イ ・学校Webページ「岸高 ’e’ 博物館」により、課題研究における論文などの成果に加え、本校が所蔵する資料のデジタル版「岸コレ」などを継続して発信する。</div></div>                   | <div><div>(1) GLHS、SSH 等の教育活動やその成果の積極的な発信</div><div>ア ・(保護者向け)学校教育自己診断「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価 90%以上を維持。[92.3%]</div><div>イ ・学校 Web ページ「岸高 ’e’ 博物館」へのアクセス数(12 月末まで)を前年度より増加させる。[7,895 人]</div></div>                                                                 | <div><div>(1) GLHS、SSH 等の教育活動やその成果の積極的な発信</div><div>ア ・「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価は 95.7%と大きく上昇し、この3年間で最も高い数値となった。(◎)</div><div>イ ・「岸高 ’e’ 博物館」へのアクセス数(12 月末まで)は 8,834 人であり、昨年度より増加した。(○)</div></div>                                                                                                                                                  |
|                                               | <div><div>(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上</div><div>ア 地域の幼稚園や小学校等との交流による社会参画意識の向上</div><div>イ 地域の公的機関やNPO等と連携した地域の課題解決や発展に貢献できる取組み</div></div>       | <div><div>(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上</div><div>ア ・地域の幼稚園や小学校等との交流を行うことにより、生徒の社会参画意識を高める。</div><div>イ ・地域の公的機関やNPO等と連携した取組みをすすめ、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高める。</div></div>                                                               | <div><div>(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上</div><div>ア ・地域の幼稚園や小学校等との交流を2回以上実施。[2回]</div><div>イ ・生徒が地域の課題をテーマとした課題研究に取り組む。2年生文理課題研究において5本以上をめざす。[7本]</div></div>                                                                                                                | <div><div>(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上</div><div>ア ・地域の幼稚園や小学生との交流は1度も実施できなかった。(△)</div><div>イ ・2年生文理課題研究において、地域の課題をテーマとした課題研究は6本であった。今後も、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高めることができるよう働きかけていきたい。(○)</div></div>                                                                                                                                                    |